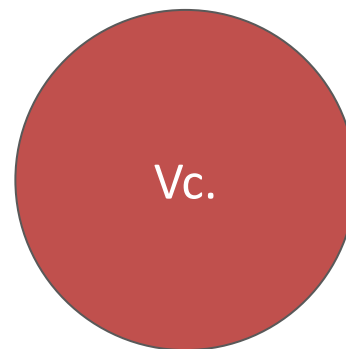
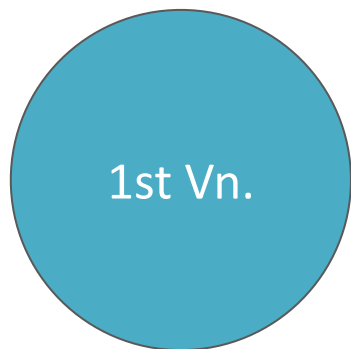


ユニゾン型の応用 「ブロックコード型」

ユニゾン型の応用「ブロックコード型」

4パート全体でコードを形成しながら単一のメロディを演奏



ブロックコード型の特徴

- ① 全体でコードを形成しながら単一のメロディを演奏
- ② 1st Violinが主旋律を演奏し、他パートはハモリをとる
- ③ ジャズピアノの演奏スタイルであるブロックコードに由来
- ④ ユニゾン型よりも華やかでゴージャスなサウンド

4パート全体でコードを形成しながら単一のメロディを演奏 Prospero M01 Strings

129 **2B** 130 131 132 133 134 135 136 8

Violin I, Violin II, Viola, and Violoncello parts for measures 129-136. The key signature is three flats (B-flat major/C minor). Measure 129 is marked with a box containing '2B' and a dynamic marking of *f*. Measures 133-134 and 135-136 feature long, sweeping melodic lines with slurs and ties across measures.

137 138 139 140 141 142 143 144

Violin I, Violin II, Viola, and Violoncello parts for measures 137-144. The key signature remains three flats. Measures 142 and 143 contain triplet markings (3) under the notes. The score concludes with a double bar line and a key signature change to two flats (B-flat major/C minor).

ブロックコード型のアレンジのポイント

ストリングスそのものがコードを演奏しているため、別途コード楽器を用意しなくてもアレンジは成立するが、バンドアレンジの場合にはほかのコード楽器との併用するのがよい。

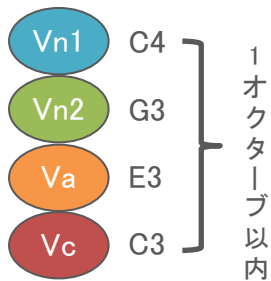
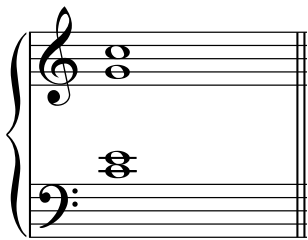
■ ブロックコード型アレンジの楽器組み合わせ例

- ✓ メロディ(orオブリガート) → ストリングス
- ✓ コード → ピアノ、ギターなど
- ✓ ベース → エレキベース、シンセベースなど
- ✓ リズム → ドラム、パーカッション、ギターカッティングなど

ブロックコード型のボイスニング

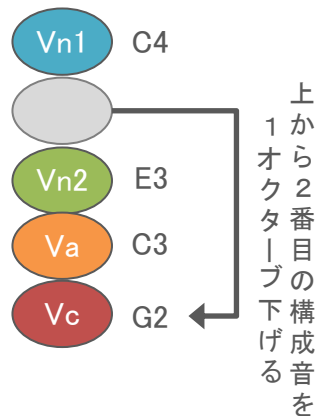
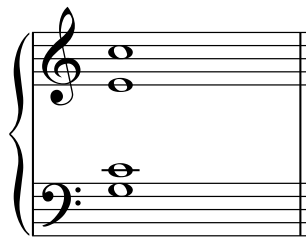
クローズドボイスニング

ブロック配置

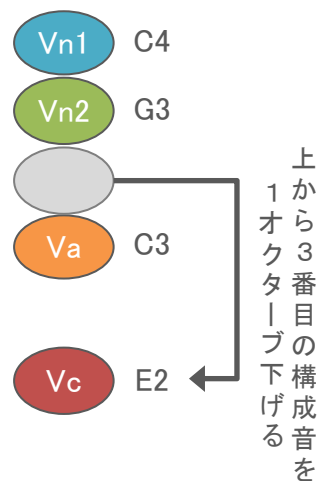
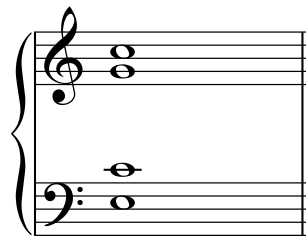


オープンボイスニング

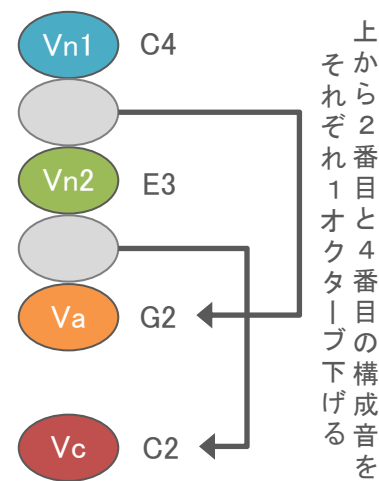
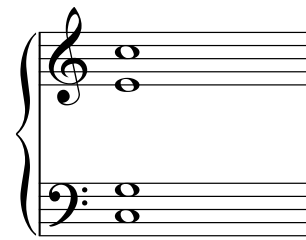
ドロップ2



ドロップ3



ドロップ2&4

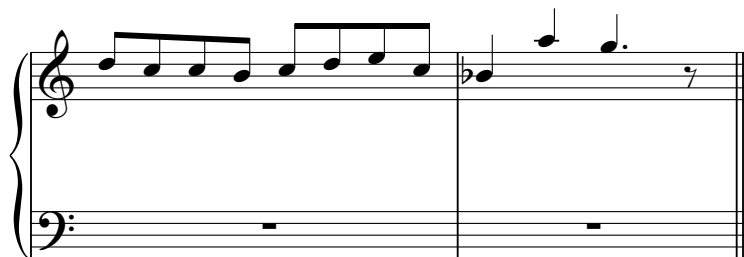


3和音のブロックコード型 アレンジ手順

3和音のブロックコード型アレンジ手順

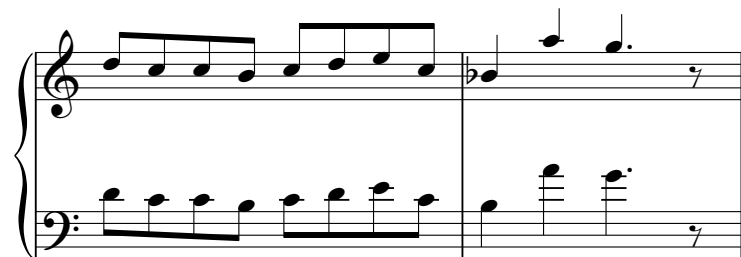
ステップ①

-まずは1st Vn.でメロディラインを入力する。



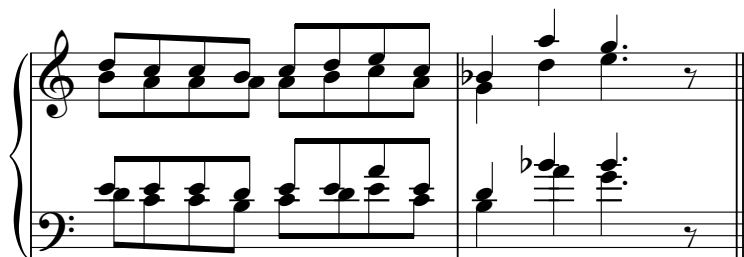
ステップ②

-次に、1stに打ち込んだメロディをそっくりそのままVc.パートに張り付け、1オクターブ下げる。



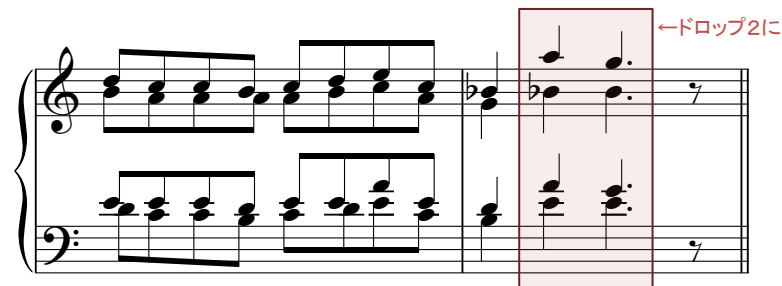
ステップ③

-楽曲のコード進行に沿って2ndとVa.を埋めて行く。この時点ではまだクローズドボイスングを貫くこと。



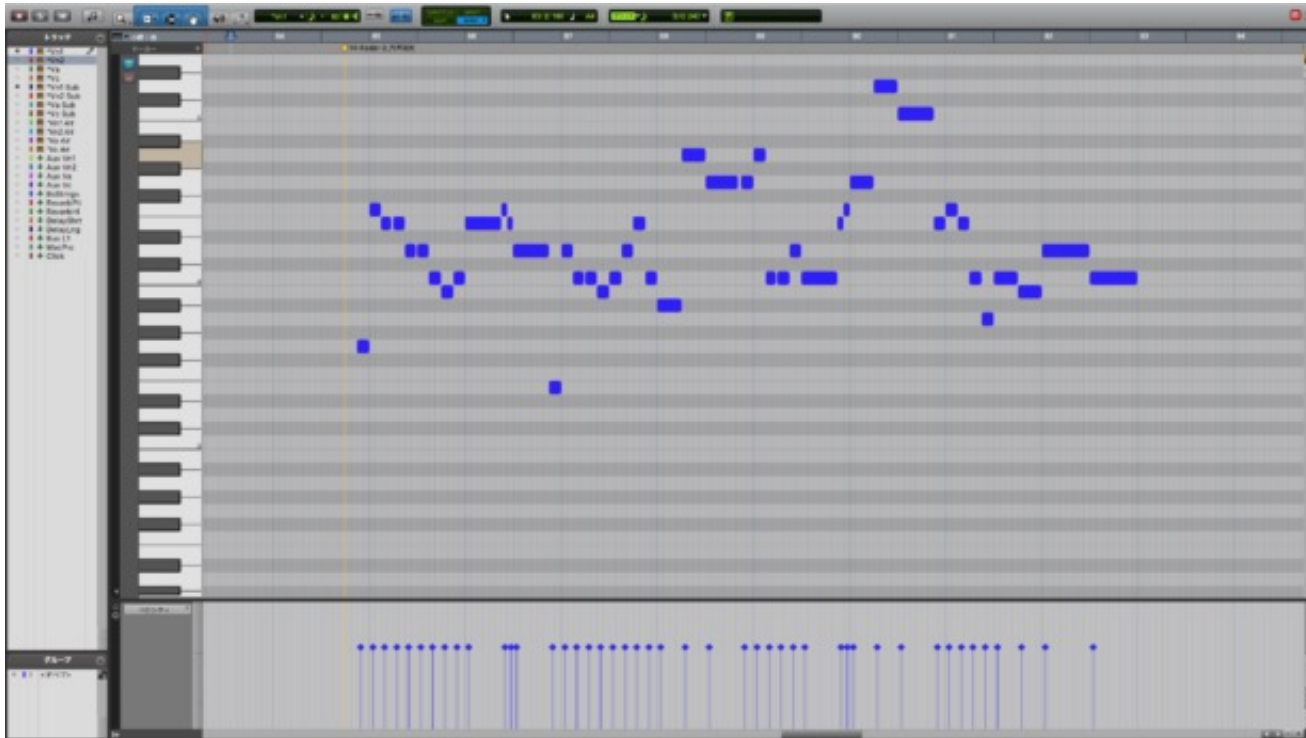
ステップ④

-最後に、全体的に音域が高くなってしまったところをオープンボイスングに替えていく。基本はドロップ2がオススメ。



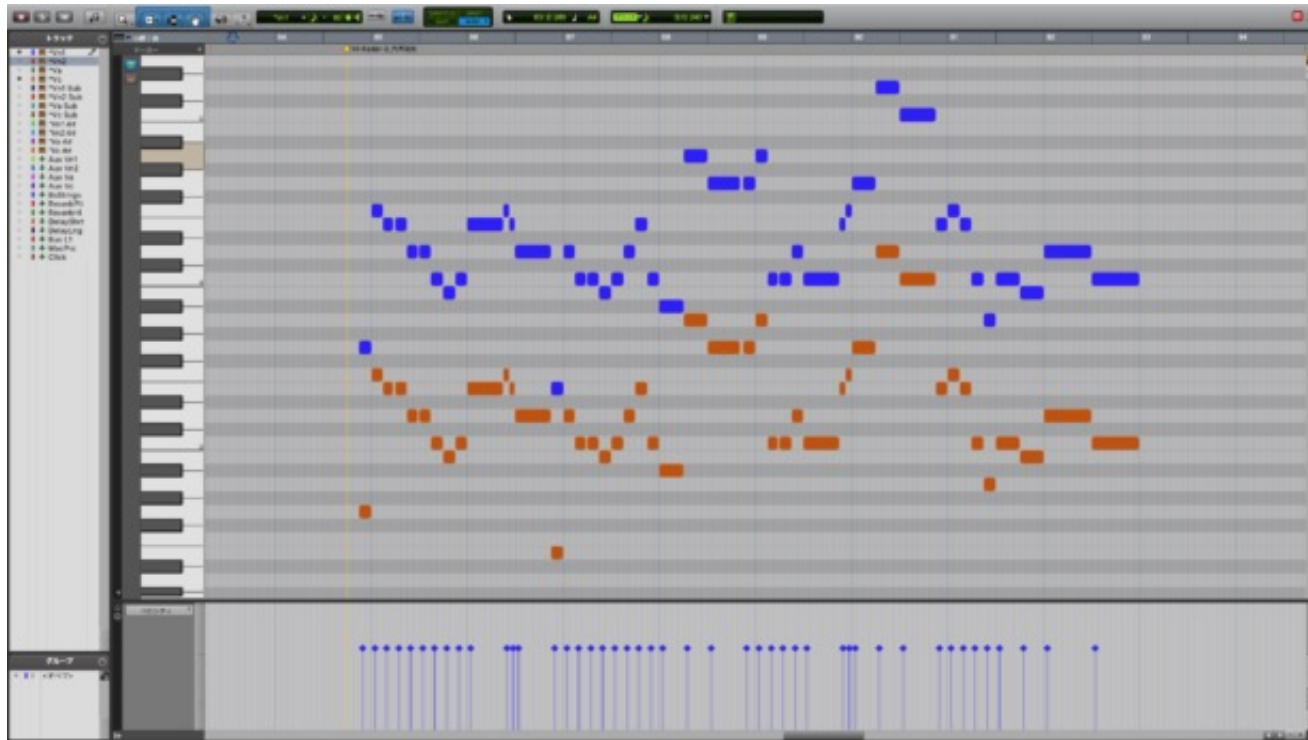
① 1st Violinでメロディを打ち込む

ダイナミックなメロディを心がけつつ、メロディの最高音がG5を超えないよう注意しよう。(このあとチェロとオクターヴ関係を作るため。)



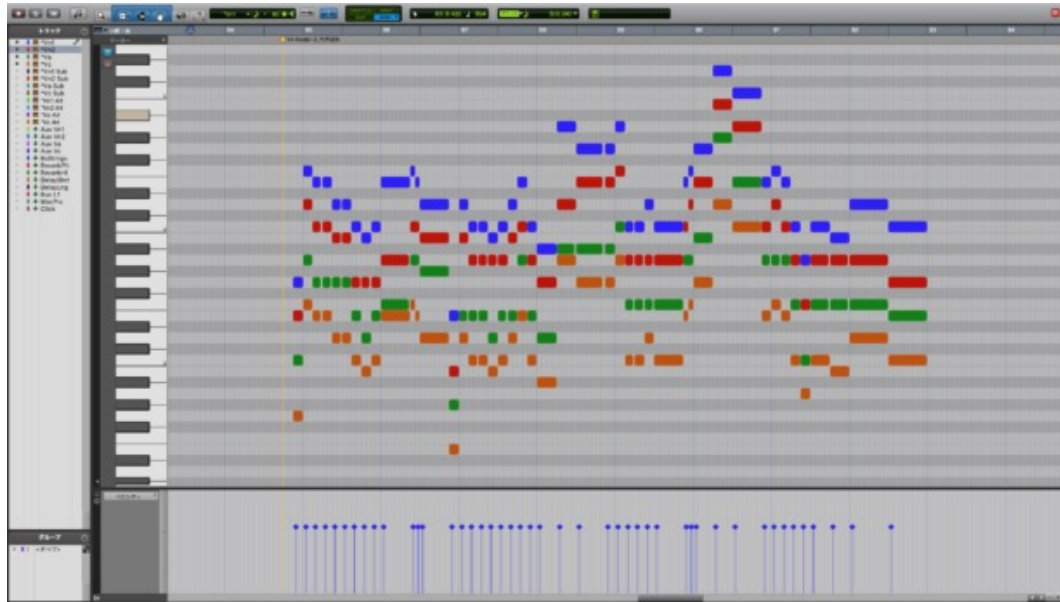
② 1stのメロディをオクターヴ下でチェロにコピー

1st Violinのデータをオクターヴ下げてチェロに貼り付けよう！



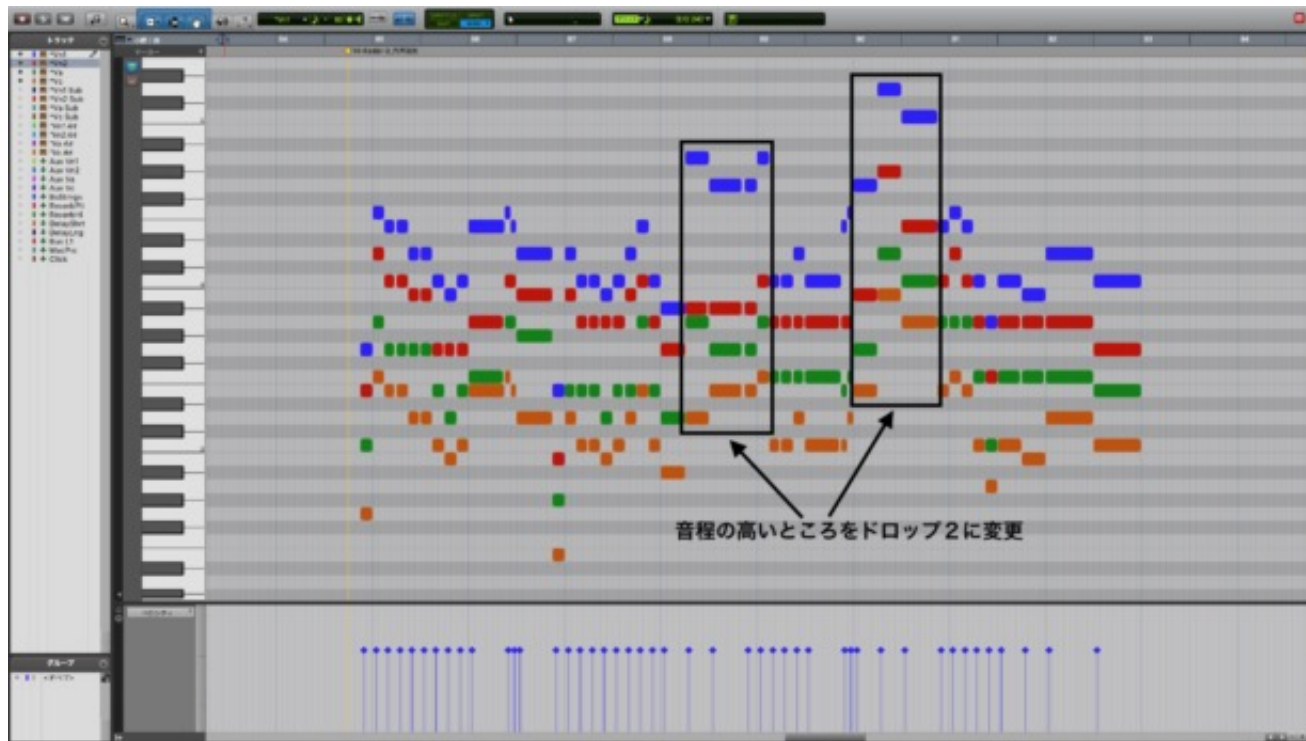
③ 2ndとViolaでコードトーンを打ち込む

- 楽曲のコード進行通りのコードトーンを使用する
- 原則としてコードトーンはすべて鳴らす
- メロディが非和声音を演奏している場合は、解決先のコードトーンを演奏しているものとみなす



④ 必要に応じてオープンボイスングに切り替える

1st Violin以外のパートの音域が高すぎたり、1st Violinのメロディをはっきり聞かせたい場合には、オープンボイスングを使うとよい。(ドロップ2がおすすめ。)



4和音以上のブロックコード型 アレンジ手順

4和音以上のブロックコード型アレンジ手順

- ① まずは3和音のブロックコード型をクローズドボイスシングで作る
- ② 2nd以下のパートを4和音すべて組み込みながら再配置する
- ③ 必要に応じてオープンボイスシングに切り替える

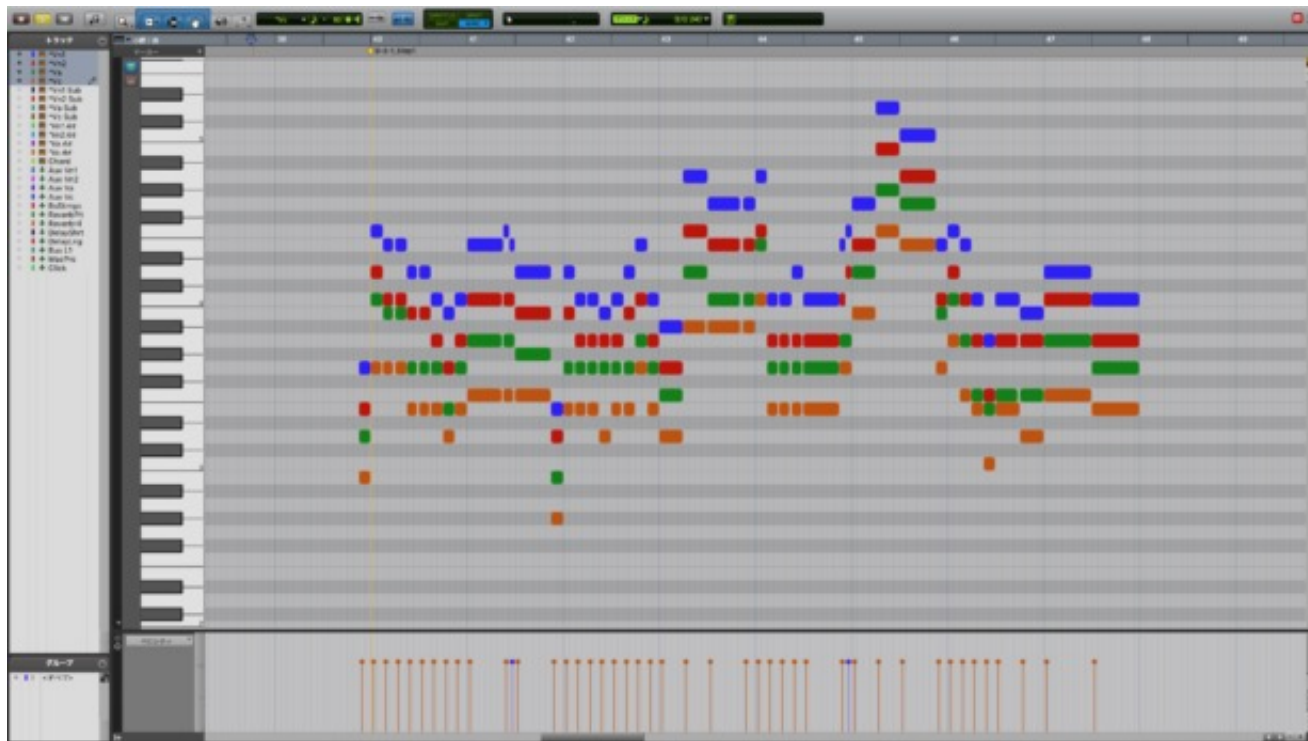
① 3和音のブロックコードをクローズドボーディングで作る

3和音のブロックコード型アレンジ手順の1～3までを実施



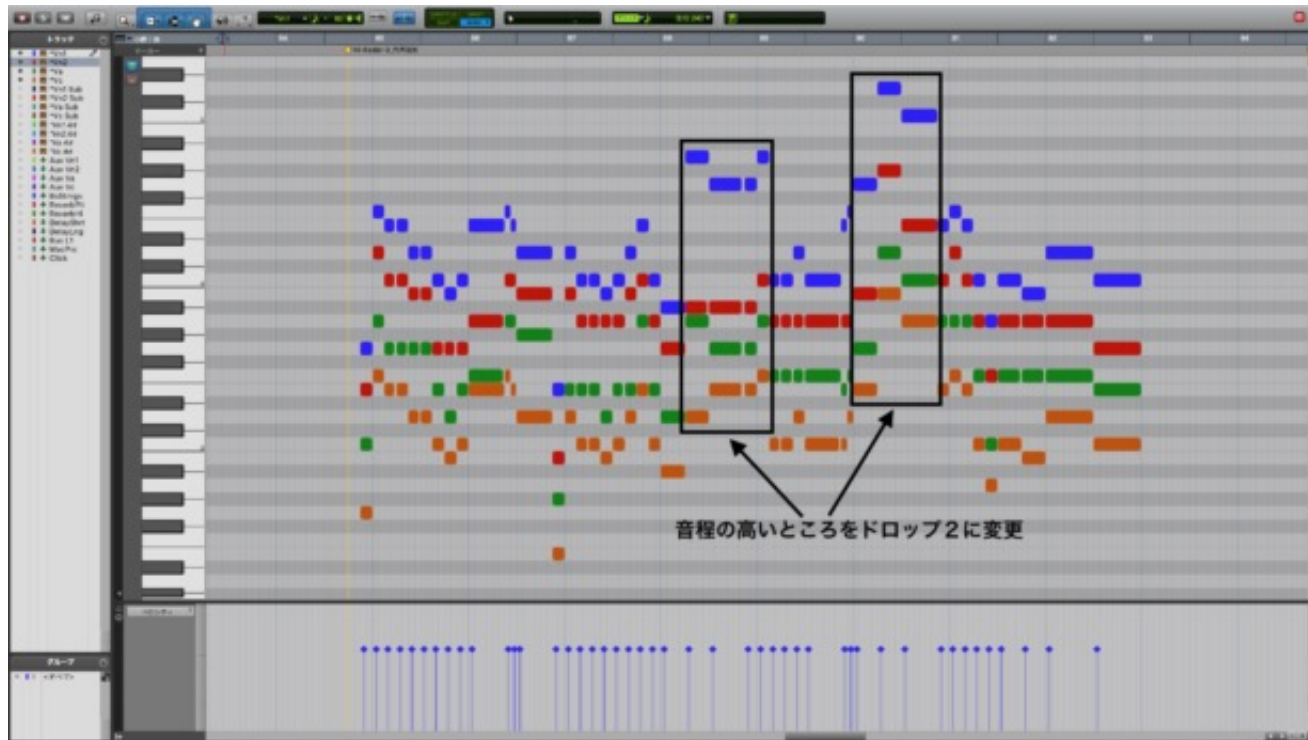
② 2nd以下の部分を4和音全て組み込みながら再配置

最初にコードの構成音を確認し、コードトーンにしたがって2nd以下の音を繰り上げるとよい。



③ 必要に応じてオープンボイスングに切り替える

1st Violin以外のパートの音域が高すぎたり、1st Violinのメロディをはっきり聞かせたい場合のほか、1stと2ndが2度でぶつかっている場合などにも有効。



The image shows a screenshot of a music production software interface, likely Ableton Live. The main area is a piano roll displaying a multi-measure rest for a track. The piano roll is filled with colored blocks representing notes for various instruments, including strings and woodwinds. Two black boxes are drawn around the highest notes in the arrangement. Two arrows point from these boxes to a text label at the bottom center of the piano roll that reads "音程の高いところをドロップ2に変更" (Change the high pitch places to Drop 2). The interface includes a piano keyboard on the left and a track list on the far left.